

長良九条の会だより

NO152

2019年

10月号

事務局 林

090-6769

-9809



新内閣は「改憲シフト」

第4次安倍再改造内閣

内閣の新しい顔ぶれが決まって4日より臨時国会が開催。

安倍首相曰く「活発な議論を行ってほしい。令和の時代にふさわしい憲法改正原案を策定してほしい。」と

安倍首相が目指し憲法改正には衆参両院の憲法調査会で議論を始めなければならないが、野党の合意が得られる見通しは立っていない。

※古賀 誠氏（元自民党幹事長）

「憲法九条は世界遺産」を出版

「九条を大切だと考える人々は立場の違いを超えて協力する必要がある」「とくに決定的なのは、国民の憲法改正に対する盛り上がり極めて少ないことです。憲法改正が必要だと言う人はそこそこいますけれどしかしなぜ今すぐにやらなければならないのかとうことになる。と誰がみても説得力に欠けているので盛り上がりません。」

11月3日（日）

ぎふ平和のつどい

児童文学者 那須正幹さんをお呼びして
市民会館にて



週間文春 10月17日号

今後の予定

- 10月19日(土)岐阜総がかり行動
金公園 10時半～ デモ行進 11時10分～
- 10月29日(火)岐阜・9条の会 名鉄岐阜駅前 17時
- 10月30日(水)長良(9の日行動)16時～サンマート
- 11月3日(日) 2019ぎふ平和のつどい 那須正幹さん
市民会館大ホール 13:30
- 11月24日(日)長良9条の会13周年のつどい
長良川スポーツプラザ 14時～16時

3,000万人署名

9月度 120筆

1134
+120

累計 1254筆

お詫び

先月の平塚の
携帯番号は

090-8077-
6234ではなく

正しくは

090-8077-
6235

すみませんでした。

みんなの広場

環境先進国ドイツの話聞いた

一六歳、スウェーデンのグレダさんは「温室効果ガス累積排出量は八年半で使い切ってしまうのに、まだ、経済発展を夢見るのか」と国連で抗議した。環境を無視し、今日まで金儲けと便利さを求めてきた企業と消費者。

ところが、「ドイツと日本の違い」という講演を聞き、ドイツでは企業は革新的環境技術が経済的成功になると「原凶者責任」の原則を受け入れているのを知った。気候変動とか原発事故など将来起こりうる問題は子孫を破滅させる戦争だと位置つけた政策を与野党が出している。それには市民が大きく関わっている、という。たとえば、脱原発は「安全委員」と「倫理委員」あり、基本的に倫理委員の意見を尊ぶという。委員会にも市民が入っている。そんなもの言う市民はどういう風な教育がなされたのだろう。ドイツでは歴史の授業は政治史で、自分の意見を言うのが、最も大事だそう。意見を言うことが評価の対象となり、どんな意見も尊重されるという基本姿勢があるという。

G・T

新しい展開、長良9条の会に！！

「岩野田九条の会」の方が長良と一緒にやりたいと言って下さいました。「長良9条の会」も、当初2けたのメンバーで事務局を運営していましたが、13年経った今、7名となり心細く、又マンネリ化も避けられず、事実上、曲がり角にきているように感じていた折の朗報！

長良九条の会

11月24日(日)に

13周年のつどい

長良川スポーツプラザ

2F

14時〜16時

*朝鮮舞踊と日朝文化の話

金 玲華さん

*朝鮮学校の話

岐阜朝鮮学校 朴 九令校長

今、学校は？

学校が、今曲がり角に来てい
る。「命を懸けていくほどのとこ
ろではない」このようなことを
言わねばならなくなってしまう
た学校とは、一体何なのだろう。
社会も地域も学校も初心に返っ
て学校とはどうあるべきかを考
えたい。今回のこのことを誰か
の責任問題に終止せず、みんな
の問題として考えてこそ、亡く
なった生徒を真に弔うことにな
ると思いますが、いかがでしょ
うか。

(中日新聞 10月4日)

つぶやき

本当のことを知る手立ては難しい。

「何が真実か」を見分けるためには、すべてを疑ってかかり、最後に見まごうことなき真実にたどり着く。だといいのだけれど、手間暇かけて追ってみてもたどり着かない場合もある。また、そうだ！と思っても違う場合もある。

自分にとっては、右も左もない。可能な限りいろんな人の意見を聞き、本をあさり、ニュースを見る。これしかない。

あちこちの路上で署名をお願いしていても、必ずと言っていいほど「中国や北朝鮮が怖いから防衛をしっかりやってもらいたい。だから憲法は変えなければならぬ」と言われる。

その時、私は「それなら結局、軍備合戦になってしまい、きりが無いのでは。日本の憲法は、よその国ともう戦争はしません。軍隊は持ちませんと言っている。それしかないのでは、」とそんなやりとりを大抵する。

中国・軍事の研究で知られる瀨藤厚著「自衛隊加憲論とは何か」では、「中国や北朝鮮(人民共和国)は防衛の為の軍備拡大であって、日本の脅威ではない」とあっさり述べているが、明快で納得できる論調である。

これを信じ、現在の『自衛隊加憲論』の改憲に対応して行くべきではないだろうか。

(平塚)

「苦しいのに、我慢して学校へ行くことはありません。命を懸けてまで行くところではありません」

九月十一日の岐阜市議会一般質問。早川三根夫教育長の答弁で、メモを取る手が一瞬、止まった。質問のテーマは、七月に市内の中学生がマンションから転落死したとみられる問題。いじめが原因だったのではと、第三者委員会の調査が進んでいる。

答弁はこう続いた。「あなたが悩んでいる班とか学級とか部活は狭い世界です。あなたには未来の広い世界があることを知ってほしいと思います」。



メッセージ

今、いじめに直面している子どもたちへのメッセージだった。

市議、市民の受け止めは割れた。「よくぞ言った」「心に響いた」。

被害者への助け舟だと評価する声があった。「配慮に欠ける」「職務放棄だ」。学校からいじめをなくすという職責に背くとの批判もあった。

その是非は置き、聴く者の感情を揺さぶる発言だったのは確か。任期が迫っていた早川氏は同二十六日に再任が決まり「真相究明と再発防止が私の責務だ」と決意を述べた。記憶と記録にとどめた。(杉浦正至)